

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型のサービスへの移行を契機に、より地域に根ざした関わりを目指したい旨の理念を掲げた。玄関を入った真正面に掲示することで職員の意識づけ、及び家族地域への啓発にも意欲が感じられる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日々のミーティングの際に管理者が話題に上げたり、職員自らが意図的に声に出して読むなどしていつも理念に立ち返る姿勢がうかがえる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の自治会に入会して敬老会等への参加を通じて、徐々に関わりはできつつあるがいまだに双方が、それぞれの個性を生かして関わる関係にまでは至っていない。	○	ホームがまだまだ、地域においてはなじみの薄い存在であることを踏まえて、広報誌の配布や、ホームを会議場として地域へ開放するなどを通して、地域での存在感をアピールするような取り組みが望まれる。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	昨年の外部評価実施後、理念の変更、分かりやすい記録への改善、介護計画作成への家族等の参加など、一定の前向きな取り組みが継続的に行われている。今後更に、外部評価の提案やアドバイスされた事項の改善に具体的に取り組まれるよう望みたい。		

宮崎県宮崎市 グループホームさんあい

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	第1回の運営推進会議の開催にこぎ着け、ホームの内容や存在意義について、地域での理解を進める取り組みが始まっている。		スタートしたばかりの運営推進会議を今後も継続することで、相互理解を深め結果として利用者が地域で安心して暮らして行けるような関係の強化を期待したい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	本部長と呼ばれる現場の責任者が市役所の介護長寿課や福祉事務所等に頻繁に出向き、ケースワーカー等とも緻密に連絡を取り合っている。		
4. 理念を实践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	日々の電話等や請求書等送付の際に簡単なお手紙等を同封するなどの取り組みは行われているが、ホーム便りの発行までには至っていない。	○	簡易なもので構わないので、何よりもホーム便りの早急な発行実現に期待したい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	昨年来、特に家族の来訪時には管理者を中心にできるだけ仕事の手を休め声をかける努力が行われている。しかしながら、苦情処理簿があるにも関わらず、開設3年に及ぶ今日まで記載がない。	○	家族が苦情を口にするまでにはかなりののかっとうを抱えて、やっと口にできるという事を職員が今一度胸に刻む姿勢が望まれる。家族の何気ない一言に多くを学ぶ感性の感度を上げる職員の今後の取り組みに期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	最近は特に大きな職員の変動はない。利用者と職員との安定的な関係作りはほぼ達成されている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム運営に絶対必要な最低限の研修は一応受講しているが、人員配置にゆとりがない事もあり、基本的な職員の資質向上を図るための研修参加が実現できていない。	○	限られた人員配置の中で業務として研修参加する事は厳しい経営環境の中で一定の制約があることは理解ができる。しかしながら、今後地域の中で住民に選ばれるホームとなるためには、職員の資質向上が必要不可欠である。これからの前向きな取り組みに期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会等へも参加しているが、今のところホーム間の相互見学や共同の研修会等の実現にまで至っていない。	○	それぞれのホームが、日々の運営に手一杯な状況にあるからこそ、同業種の人が集いそれぞれの悩みに共感し知恵を出し合う関係の構築を期待したい。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居にちゅうちょしているケースや不安のある人については、体験入居を受け入れている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	できるだけ、職員は日々の生活の中で利用者一人ひとりのこれまでの生き立ちや、環境を理解する働きかけを行っているが、十分とはいえない。	○	利用者一人ひとりの、入居時及び入居後の生活歴等の把握する取り組みが不十分なので、近隣の人や親族及び本人からの更なる情報収集に裏打ちされた関係作りの強化に期待したい。

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で利用者が発した言葉をできるだけ記録に残し、それらを基にミーティングや全体会議等で検討を行い利用者の思いに寄り添った介護の実現を目指す姿勢が伝わってくる。		
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族の来訪時に日ごろから介護に関する意向の確認に努め、できるだけケアプランに反映させる取り組みが行われている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3 か月おきの定期のプラン見直し、状態変化に伴う随時見直しにも取り組んでいる。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ごく限られた近隣の人々へ、災害時等の利用の呼びかけを行っているが、まだホーム全体として地域に対してその多機能性を発揮するまでには至っていない。	○	自治会等への日常的な働きかけを通して、災害時に限らず緊急の見守りや、ショートステイ等のニーズに応えられる体制の整備に期待したい。

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体法人が医療機関でもあり、またそれ以外のかかりつけ医との関係も継続できており、適切な医療が受けられる体制にある。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	当ホームではなかなかターミナルの事例まで受け入れられる状況に無いので、日ごとから家族等と重篤化した際の意向の確認に努める取り組みが行われている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	排泄の誘導等に関しても、さりげなく対応されており、職員の日々の会話にも一人ひとりの利用者に対する気配りが感じられる。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	買い物の際に同行したり、少人数でドライブに行くなどの取り組みが行われているが、対象者がある程度限定されている。日を決めて晩酌している利用者もあり、個人の思いや意向をくみ取る姿勢はうかがえる。	○	本人の意向もあってほとんど外出しないような人にこそ、外の四季折々の変化を実感できるような機会を職員側から積極的に作っていく取り組みを期待したい。

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	当日は、利用者の一人が誕生日ということもあり、彩りのきれいな食事が食卓に並んでいた。限られた人ではあるが、配膳や下膳をさりげなく手伝う姿も見られた。職員も同じ食事を一緒にとっており、和気あいの雰囲気がある。		季節の彩りや健康面に配慮した食事作りと、職員も利用者と同じものをいっしょに食べる今日のような取り組みを今後も継続されることを切に期待したい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、基本的に週2回で時間帯も午前と午後2時位までに限られている。	○	夏季など入浴までは無くとも、随時のシャワー浴や、せめて午後4時、5時位までは利用者の希望に沿った入浴の可能な体制の整備に期待したい。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	まだまだ、利用者の生活歴の把握が不十分なところがあり、一人ひとりの好みや関心に則して日々の生活を組み立てていくところまで至っていない。	○	大まかな週間、月間のプログラムを作りそれに即した人員配置を行うなどの工夫が望まれる。生活歴の広範囲な把握にも引き続き努力を期待したい。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	限られたマンパワーの中で、利用者全体で出かけたり、個人の希望に即した外出に日常的に対応できる体制に無い。	○	時間限定のパートなどの補充やボランティア育成の働きかけを強化して、もう少し日常的に外出する取り組みに期待したい。
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	今のところ、鍵の利用に関しては、新規利用者のいる時期や徘徊の頻繁な利用者のいる時期に限定されている。		引き続き、極力職員の見守り等や地域住民へのホームの利用者の理解を深める取り組みを強化する事を通して、結果的に鍵をかけないでも済む体制の整備に期待したい。

宮崎県宮崎市 グループホームさんあい

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	運営推進会議等を通して民生委員等を中心に災害時等の協力体制について、一定の枠組みができつつある。		災害対策マニュアルの確認等、繰り返し全職員に徹底し教育が行われることが望まれる。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分及び食事量等については、個人記録に記載が行われ把握できる体制になっている。栄養バランスや献立が、利用者に即した内容になっているか、栄養士等のアドバイスを受ける体制に無い。	○	市の保健所や県の栄養士会等に働きかけて、必要に応じてアドバイスが得られるような体制の整備を望みたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室とも日当たりがよく明るい雰囲気がある。敷地内に緑も豊富で居ながらにして、一定の季節感を感じられる環境になっている。テレビの視聴等については、臨機応変な対応が行われている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	もともと2世帯住宅ということもあり、各居室には個性があり家具等も個人の個性が生かされている。ホーム全体として一人ひとりにとって居心地の良い環境を整えたいとする姿勢が伝わってくる。		

※  は、重点項目。